

会 議 録 (概 要)

会議の名称	平成19年度長岡京市地域健康福祉推進委員会児童福祉部会
開催日時	平成19年11月2日(金) 午後1時30分開会～午後4時00分閉会
開催場所	長岡京市役所 4階 大会議室B
部会長	安藤和彦委員
出席者	安藤和彦委員、工藤充子委員、三代潤子委員、川嶋光子委員 岡崎進委員、藤井恵美子委員、大久保敏夫委員 三浦千尋委員、室園芳宏委員、相川宜嗣委員、富岡友美委員 井上美江委員 (以上12名) 傍聴1名
欠席者	安藤ルリ子委員、八木有美委員、柊 彰委員、八木 昭委員 小川史顕委員
議題(案件)	(1) あいさつ (2) 児童福祉部会員紹介 (3) 役員選出について (4) 児童福祉部会について (5) 長岡京市次世代育成支援行動計画18年度事業概要報告(案)について (6) その他
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長岡京市次世代育成支援行動計画(新・健やか子どもプラン)平成18年度事業概要報告書(案) ・ 上記報告書の誤植・追記 ・ 部会員名簿 ・ 参考資料(子育て支援応援事業)
議 事 の 経 過	
発言者	意見要旨
	(開会)
健康福祉部長	1) あいさつ

司会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童福祉部会員の紹介 ・ 部会がスムーズに進行できるように、部会長を選任したいと考えるが、選任方法について意見がありますか。 ・ ないようなので、事務局案として安藤和彦委員を部会長に選任します。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就任あいさつ。 ・ 職務代理者について、小川委員を指名します。今日は欠席されているが、了承を得ています。 ・ 傍聴希望がありますので、許可してもよろしいか。
一同	<ul style="list-style-type: none"> ・ 了承
部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 案件2の児童福祉部会について、事務局より説明願います。
事務局	2) 部会の説明
部会長	3) 長岡京市児童育成計画事業報告について
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長岡京市次世代育成支援行動計画（新・健やか子どもプラン）平成18年度事業概要報告書（案）に沿って、誤植・追記の確認とプロジェクターを使って平成18年度の事業報告（別紙1）。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 只今の事業報告に関して質問があれば発言願いたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 報告書を見ていると、19年度の予算額が入っているものと入っていないものがあるが。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的には決算額ベースの現計予算額を記入しているので、19年度の数字は出ないが、当初予算を記入している部署もある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 報告書を見ていてもよく分からない。 ・ 18年度に虐待の事件があったが、18年度の報告書にはそれに関する数字はまだ上がらないので、19年度に注目したい。 ・ P16に上がっている両親教室だが、初産婦のどれくらいの率が受けているのか。 ・ 報告書の数字は、行政が把握してどういう意味を持つ数字なのか、全く伝わってこない。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 18年度の初産婦のうち、両親教室を受けておられる方は34.6%である。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・委員がおっしゃられたように、18年度に虐待の事件が起こった関係の事業は、19年度に実施されており、18年度には現れにくい。 ・事件後の児童虐待の対応としては、情報共有、市民意識の高揚、被虐待家庭への支援、の3つの課題に具体的に取り組んでいる。 情報の共有 ・通告直後の児童相談所と長岡京市相互の情報の共有及び係わりの確認 ・月1回、主任児童委員との連絡調整会議 ・実務者会議を第4火曜に開催し、現在63世帯118名を把握している。
事務局	<p style="text-align: center;">市民意識の高揚</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもをすこやかに育むまち宣言 ・虐待防止アドバイザーを設置した。NPO法人ほっとスペースゆうの理事長であり、元宇治児童相談所の所長である工藤充子さんをお願いした。 ・“気づいてくださいこどもSOS”の全戸配布。 ・“児童虐待防止のための早期発見・対応ブック”を関係者、関係機関へ500部を配布 ・子どもをすこやかに育むまち宣言の横断幕 ・広報・ホームページに虐待防止の啓発 被虐待家庭への支援体制の強化 ・育児支援アンケート事業 <p>1歳8か月健診と3歳6か月健診の間における保護者の不安を解消するためのアンケートの実施。パンフレットの配布や電話、訪問による相談。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・転入児アンケート調査 <p>転入児のアンケート未回収者に対して、適切な時期に健診等を受けているか等の確認を行い、当該家庭に関わっていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つどいの広場助成事業 <p>親と子（3才未満程度）が気軽に集い、親と子のふれあいの場とともに子ども同士、親同士の交流や親に対する子育て相談を通して、子育て家庭の孤立化の解消に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援活動応援事業 <p>子育て支援活動に取り組むサークル・団体を支援するとともに、それらのサークル・団体のネットワークを構築し、子育て支援に携わる関係者が児童虐待防止意識を高め、児童虐待の早期発見、子育て家庭の孤立化を防ぎ、児童の健やかな育成と良好な親子関係の構築を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ等対策指導員事業 <p>各学校の実態、状況等を把握し、個々の状況に対応できる、指導主事と対策指導員が協力し、学校を回り早期発見、早期対応を図る。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師、保育士、教育支援センターも含めてだが、この中で現場の第1線で子どもと接している人はどれくらいいるのか。人間同士の係わりあいの事なので、汗や泥をかぶって働いている人間がどれくらいいるかという事が大事である。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士は正職員は80人、パートや嘱託職員が50人、アルバイト保育士が200人。保健師が20人。後は、教育センターの職員が何人いるか正確には分かりかねるが、4箇所の民間園や、認可外保育園、小中学校教員や学童保育の指導員、調べれば人数は分かる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・現場の人の情報が必要。幼稚園は気になる子が増えている。 ・お金、制度、資質をバックアップする体制があると効果的。 ・母との衝突が起こりやすくなっている。お母さん方を支えられる人、勉強しようという先生がいると大分違う。 ・制約もあるが、実質子どもに関わる所はどれほどあるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO、サークルも子育て支援に取り組んでおり、民生児童委員も関わっている。関わりのある所は限りなくある。今後把握が必要。個人・少数の所は把握が難しいが、把握出来るよう努めたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・そういう風土が育つことが大切だ。どこにも関わらない所で問題がいっぱい出てくる。近年は子どもが一人でいる時に事故が起こるケースが増えている。周辺の大人の子どもを見守ろうという力が減ってきている気がする。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・（見えない力は）大切な事である。特に専門性、資質、人数がいる。昨年の児童虐待の事件以降、市民の力が飛躍的に伸びている。変わってきたのは、見えない人を見ようとする人が増えてきたのと、みんなで（問題のある児童を）何とかしようとする市民が増えてきた。一人で分かっているても出来ない事である。関係者のネットワークも機能してきている。見えない力を、形として集約できてくればよい。（昨年の児童虐待の事件で）市民は痛い思いをしたが、関係機関は動き始めた。市民の皆さんにどう見せるか、行政が考えていかなければならない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・就園前の子どもをどうするかという部分で、保健師の仕事が増えているが、嘱託保健士も含めて、保健士は何人いるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・13人である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今の人数はしばらく変わっていないのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・定員は満たしていないが、労働条件で雇用が難しい。行政側としては増員したいが、現実難しい。

委員	<ul style="list-style-type: none"> 基本目標とあるが、17年度から21年度の推移はどういう基準で判断すれば良いのか。保育サービス特定14事業は数値目標が上がっているが、その他の事業の目標はどうなっているのか。例えば西山公園の整備の段で、市民一人あたりの公園面積が出ているが、目標は設定されているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 市民一人あたりの公園面積は、みどりの基本計画に20年度の目標として示しており、18年度の実績としては2.3m²である。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> その他についてはどうなっているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 保育サービス特定14事業については、国から示されている行動計画の本体であり、P1、2に示している。ここに上げている数字は、平成16年の現状で掲げた目標であり、クリアーしているものも数字の見直しを行い、変更を行う。その他の事業については、それぞれの主管課が目標を設定し、総合計画として政策推進課で取りまとめを行っている。次世代育成行動計画で管理している事業については、P9～13の進行管理カルテに状況を示している。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 5カ年計画の途中の報告書なので、目標のどの程度進んでいるかが分かれば資料として、より良い。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 事業によっては数値化できないものもある。総合計画とは年度の設定が異なるが、検討し、本計画としても目標値は書けるものについては、H19年度に目標を出していきたい。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> その点よろしくお願ひしたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 21年の目標の数値を入れて、そこに向かっていく事を示すことが必要である。資質を数値で表せないものは文章で表せる。1年で何が進んだのか分かるようにしてもらいたい。特殊出生率や留守家庭児童会は、国の数値があり目標が分かりやすいが、他の事業については各課で取り組んでいる内容を分かるようにしてもらいたい。冒頭を概要で分かりやすく説明できないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ご指摘の点については努力する。分かりやすく冒頭の概要で要点を示せるようにしたい。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> 最大限努力していると思うが、委員から指摘のあった点については善処して次年度に活かしてほしい。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの結果は、母の悩みが見えるものになっている必要がある。どのような改善が見えるものになっているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2才6か月アンケートでは、育児に対する不安、食事に対する項目を用意し、 をつける形式である。自由欄、ケーススケール（にこにこ笑っている、涙を流している等） 育児に支援している人がいるか、などの項目。 が付いている項目によっては、話や電話をし、個別の専門員や、心理士につなげている場合もある。 ・ トイレトレーニングの相談が多いが、1割～2割までは問題ない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問題を聞き取る電話が子どもを寝かしつけた後にかかってきて、自分の時間がなくなるケースがある。 ・ また担当者が変わったら、一から説明が必要である。そういった所を把握するための新しいアンケートはされているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な声はまだ聞いていない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 要支援家庭の気持ちが大事。それで解決に向かったのか。現在のアンケートの結果、支援してもらったら、親の実費がいるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実費負担がいる。公的費用でしている制度もある。具体的に要望があれば回答できる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 親の回収率、実費負担の回収率は。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の種類による。保育料の負担も全国平均よりも少ない。福祉や労働政策の幅を広げるので、実費負担は若干ある。負担の一部は保護者にも説明をしている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ “この施策をしてよかった” “効果のあった” アンケートの結果 “良かった” という声が聞かれたのが成果である。数字の達成度を見ても、数値では測れないものがある。例えば、夜間保育事業は目標事業量を達成しているが、子どもにとって迷惑なのか良かったのかは別である。子どもが健康で活発であったら、事業がそれにどう関わったのか出ると良い。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夜間保育は子どものためにはならない。援助していかなければならない。中には、施策に入らない事が増えてきた。マイノリティを把握して重点的にやっていかなければならない。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの事なので、成果が現れるまで時間がかかる。幼稚園で言うと、卒園して何年後かにどれくらいの子どもがコンタクトを取ってくれるか、会いに来てくれるか、という事だろう。そういった事が現場の人間の誇りである。 ・保育所の延長保育も7時半まで実施するのは大変である。幼稚園、学校も大変である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・3人目が出来てゆとりをもって育てられると言っておられた方がいた。子育てはしんどい。育てにくい家庭が増えている。子どもがいて生活保護を受けているなど、生活面で困窮している家庭が増えているのが気になる。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・目標数値は量的に現実に結び付けているのかもしれないが、データを繋いでいかないと表せない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・就学前、就学後の繋ぎに何か施策がある。子育てに困難があり、特別支援が必要なケースが増えている。8時、9時になっても誰も帰ってこない家庭があったり、子どもが7才になってもますます子育てが困難な家庭がある。加配が学校にも入ってもらわないと困難である。母子家庭も増えているが、父子家庭も増えている。父子家庭の子育ては非常に困難である。援助の制度も少ない。施策の質的な充実もお願いしたい。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・幼小の連携、保小の連携、就学後の対応がある。父子政策は母子政策に含んで考えなければならない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・この会議に初めて参加しました。当園では平成16年から一時保育を実施している。保育園は週4日4時間以上の就労用件が必要なので、母の入院などの緊急の場合に入れるように始めた。3年目だが、利用者は増えている。気になる子どもは保健センターで健診を受けてもらっている。同年齢の子どもの中で育てることが大切である。子ども10人を保育士1人で見ているが、加配の制度がない中で、手のかかる子どもは受けられない。見て欲しい子ほど受け入れられない本末転倒な状況が起こっている。幼稚園のように、子どもが集団保育を受けられる場所があればよい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後子ども教室（すくすく教室）に女性の会としても参加しているが、学校の先生にお聞きしたい。おけいごとなどと途中で帰る子どもが多いが、この事業の見通しはどうか。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 青少年スポーツ課では、放課後子ども教室をすくすく教室の愛称で進めてきた。文部科学省、厚生労働省では、放課後子どもプランを、犯罪に子どもが巻き込まれないような安全な居場所づくりや、学校が地域で昔のような機能を果たすような目的で設定している。現状は子どもの参加が少ないが、これから積極的に進めていきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市によって取り組み方は違う。どこの自治体でもすくすく教室をやっている。ネットワークも広がると安心が広がる、女性の会には参加していただいているが、それが大事である。6時間目から低学年用の教室を開いており、その教室が終われば高学年と一緒に帰らせている。事件に巻き込まれないよう、登下校は保護者をお願いしている。 ・ 学童保育に行っている子どもからは好評である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 留守家庭児童会は8小の大規模改修は、ニーズに対応していただきありがたい。参加の仕方についても、青少年スポーツ課にはお世話になった。現在、指導員が半分辞められる。経験を持った方がいなくなる恐れがある。長らく培ってきた知恵を受け渡せるように工夫をお願いしたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導員の体制はシミュレーションした上、予測している。受け止めて内部で協議も行っている。今年初めてすくすく教室に関わったが、指導員を現場でフォローする人もいる。
	3) その他
事務局	にじっと子ども広場について説明
部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本日はご意見をいただきありがとうございました。 (閉会)